

若浜の子ども



令和3年7月19日 第4号

マナー検定第1回目の結果

学校と母親委員会がタイアップして取り組む「マナー検定」。7月1日にご家庭でカードに評価をし、その結果をオンラインで返していただいた結果が以下の通りです。(回答数87件)「はきはき気持ちのよいあいさつ」が向上したのはうれしいですね。「家族へのあいさつ」がダウンしているのは残念。

オンラインアンケート結果7月1日 (数字は%)

前年度1回目との比較 ◎…7%以上向上 ○…3~7%向上 ▽…3~7%ダウン ▼…7%以上ダウン

項目	評価者	できている	努力している	できていない
1 自分からあいさつ	子ども	72.4	24.1	3.4
	家族	○58.7	31.0	10.3
2 はきはき気持ちのよいあいさつ	子ども	○58.7	33.3	8.0
	家族	◎54.0	31.0	15.0
3 笑顔であいさつ	子ども	44.8	44.8	10.4
	家族	▽39.1	47.1	13.8
4 家族へあいさつ	子ども	75.9	17.2	6.9
	家族	▼58.7	31.0	10.3
5 先生へあいさつ	子ども	○85.1	14.9	0
	家族	◎82.9	16.1	1.0
6 友だちへあいさつ	子ども	74.8	19.5	5.7
	家族	70.1	23.0	6.9
7 地域の方(交通指導員さんや安全サポーターの方々など)へあいさつ	子ども	81.6	16.1	2.3
	家族	◎73.6	20.7	5.7

オリンピック、パラリンピック選手に学ぶ



6月、7月の校長講話の話題として取り上げたのは東京オリンピック、パラリンピックに出場する陸上競技の選手でした。（あまたの競技からなぜ陸上なのかというと、私自身が陸上競技をやっていたからです。）

まず、男子100mでオリンピックに出場する山縣亮太選手です。山縣選手については様々なメディアで多くのエピソードが紹介されているのでご存

じの方も多いと思いますが、子どもたちに紹介したのは以下の3点です。

- ・ 予定日よりも2か月早く誕生した未熟児（1730g）であった。
- ・ 骨格や筋力の異なる外国の選手のまねをせず、自分が理想とする走りを追求する。
- ・ 自分のフォームをビデオに録り、徹底して改善点を見つける。

これらのエピソードから、子どもたちに伝えたことは、小さく生まれてきたがたくましく育った。自分らしさを大切にする。自分の頭で考え、実行する。ということです。

パラリンピックの選手で紹介したのは、女子マラソンの道下美里選手です。道下選手は、小学校4年の時に角膜の病気を患い、中学生で右目を失明、短大卒業後、左目も失明し、27歳からダイエットを兼ねて走り始めたという方です。フルマラソンの記録は2時間54分13秒で、視覚障がいT12の世界記録保持者です。



道下選手の好きな言葉

「難がないのは無難な人生。難があるから有難い。」

「耐えるもの必ず志を得る。」

ハンディに負けず挑戦し続ける道下選手らしいと思います。

山縣選手、道下選手だけでなく東京オリンピック、パラリンピックに出場するすべての選手が、これまでの努力の成果を、大舞台上で発揮されることを祈っています。

<余談>

私も20年ほど前、1度だけですが全盲の方の伴走をしたことがあります。（距離は4km）その時はコースの状況、残りの距離、ペース、励ましの言葉など絶えずコミュニケーションをとりながら走りました。初めてのことで難しさと緊張はありましたが、伴走が終わったときには、自分一人で走った時とは違い、人の役に立つことができたという満足感がありました。

校内美文字コンテスト（硬筆）

手書き文字のレベルアップをねらいとして、昨年度から始めた校内美文字コンテスト。今年度もレベルの高い作品が多く、苦渋の決断による審査結果です。

<金賞>

1年生

さとうなおき いけだはるか たなかかほ さとうこはる いがらしはると
みやかわななこ あべるな すずきあんな あべかなで すずきひろと
きむらあやの くどうもも

2年生

瀬尾さえ 本多かい 日下部こはる 田村ねね 佐藤しおり 吉野さくら
阿彦しおり 太田れん 丸藤ももか 佐藤みゆ 中川ゆづき 本間ゆうか

3年生

志田芽咲 五十嵐希 石垣陽葵 佐藤妃与璃 菅原美織 畑中明紗 三浦結菜
池田夏穂 斉藤優奈 佐藤琉衣 杉原晃介 相馬優奈 那須優楽乃 根本大輝

4年生

田村彩音 守屋里緒 吉田晴光 奥山健瑠 佐藤倅羽 鷺田崇太郎 鈴木亜花璃
佐藤夏実 菅原悠介 梶原礼衣

5年生

阿部紬 菅原侑真 高橋佑太 高橋ひより 今田希愛 田中弥月 御船有紀人
菅原侑莉 高橋彩珠 芝田朱里 佐々木心夢 阿部海璃

6年生

伊藤梓 小松菜々美 佐藤楓奈 佐藤麻央 住石帆花 井澤歩花 加藤絢翔
佐藤昌 佐藤千華 山下ひなた

<校長賞>（人一倍努力を重ねた児童、進歩が著しかった児童、文字が金賞に近い児童）

1年生

しばたなつむ たかはしさわ さくまはるむ すずきみずき さいとうめいこ
かわむらはるま

2年生

清川みつき 高橋あきら 渡部きょうや 池田りお 奥山ひなた 渡部じん

3年生

齊藤悟 長沢みのり 渡部陽翔 齋藤丞 高橋來実 黄菊榮

4年生

井黒もえ 三浦莉桜 ローウェン久麗亜 山下ひかり 栗橋花帆 五十嵐勇吹

5年生

池田柚稀 照井美遥 阿部麗奈 富樫琴 齋藤桜 齋藤杏子

6年生

井上遥琥 佐藤杏夏 佐藤百華 齋藤瑠來

学習用端末の家庭での使用



すでに市の広報などでご存じの通り、学校で使用している学習用端末（クロームブック）の家庭への持ち帰りを始めます。

目的は、①タブレット端末の操作に慣れる、②調べ学習やEーライブラリで学力の向上に役立てるということです。

その一方で、心配されることは、長時間使用による視力低下、YouTubeの視聴依存症などです。そのようなマイナス面への対応として、本校のルールを高学年児童とともに決めました。しかし、ゲーム機やスマホに代表されるデジタルメディアの制限の必要性は、わかっているにもかかわらず難しいことが多いものです。

今回の学習用端末は、税金で購入した学校備品ですので、ルールを順守することをすべての子どもに求めます。もし、保護者が注意してもルールを守らない場合は、保護者の権限で、保護者が一時預かりにする、持ち帰り停止を学校に申し出るなどの対応をしても結構です。自動車にブレーキが備わっているように、便利な機器には制動する仕組みが必要です。保護者の皆様からは、IT機器と上手に付き合っていくことができる次世代の育成にご協力をお願いいたします。

若っ子のがんばり



- 第41回全日本バレーボール小学生酒田飽海大会
混合の部 優勝 若浜バレーボールスポーツ少年団
- 第21回山形県少年健全育成柔道大会兼第18回全国小学生学年別柔道大会予選会
男子6年45kg級 第2位 高橋亮太
- 酒田飽海地区学童軟式野球大会
第3位 CJヤンキース
- 第43回全国スポーツ少年団全日本学童軟式野球交流大会山形県大会
第3位 CJヤンキース
- 第31回山形県躰道選手権大会
団体法形競技 第3位 佐藤蒼珠